



広報ボランティアのページ

●担当ボランティア／日置雅夫・岩下茂子

スリランカで国際協力活動

JICA・TFGプロジェクトの事例-その4(最後に)

NPO法人タランガフレンドシップグループ(TFG)は、2007年度と2008年度に低開発村の住民のための基礎農業や農業経営等の研修を行いました。

プロジェクトを始めるに当たって、近くの仏教寺院で事業の成功のために、捧げ物をし、関係者十数人でお祈りをしました。計画を立てるのに半年、JICAの審査が半年、その後2年かけて事業が実施されました。都合3年に及ぶプロジェクトでした。

スリランカ国内の活動では、マーネル・クマリーさん(写真右端から二人目の女性)が心強い協力者でした。TFGスリランカ事務所の代表であり、私の通訳でした。彼女は岐阜大学博士課程中退の日本語が堪能な人です。もう一人は、ジャヤシンハさん(写真左端後方の男性)です。北西州政府の農業省の職員であり、地元をよく知る重要な協力者でした。二人には特に感謝しています。

事業を進める上で、JICAスリランカ事務所や北西州政府のサポートがありました。当然、北西州に住む住民の手助けもありました。現地調査のため、いろいろな地元民にお会いし、意見を聞きました。食事に呼ばれたこともあります。研修生の結婚式にも参加しました。事業の最後には、北西州知事よりクマリー先生とともに感謝状も頂きました。

今となっては、多くのスリランカの方々との交流こそが、私にとっての最大の財産です。そして、プロジェクト関係者の多くの方々にも心より感謝いたします。ありがとうございました。(日置)



スリランカ北西州の畜産農家を訪ねて
畜産研修会場の事前調査2007年12月撮影

少しずつ戻りつつある日常を探して

世界中に影響を与えた新型コロナも3年が経過し、本当に少しずつではありますが、日常生活も戻り始めていると感じる機会も増え、喜びと期待をしています。

今回、新型コロナの感染対策を十分に行うという条件のもと、尾西地区の福祉団体のグループが鍛錬旅行を3年ぶりに企画、開催されましたので取材させていただきました。

今回は長野県ヘリンゴ狩りに出掛けるということでした。出発の時刻に取材とともに、お見送りをさせていただきましたが、参加の皆様も長い自粛生活であった為にこの旅行を非常に楽しみにしておられる方がたくさんみえて、何よりも皆さんの笑顔がとてもよく、印象に残りました。

久しぶりの楽しい思い出の1ページの追加になれば良いなと思いました。

いよいよ、少しずつ少しずつではありますが、日常が戻りつつあります。

来年度こそ、この取材ページにコロナに関係なく、皆さんがいろいろな場所で活動されている内容を、載せられるよう期待しています。(岩下)

